

2021年度東北地理学会第1回研究集会報告
第3回 「東北の次世代観光交流」研究グループ研究集会
ニューノーマル時代の観光を目指す地域の変容

執筆者：山田浩久

参加者：31名

2019年末からの新型コロナウイルスの感染拡大によって、東北の観光も大きく変わり、次世代の観光交流を考えるための新たなフレームワークの構築が必要になっている。「東北の次世代観光交流」研究グループでは、科学研究費補助金基盤研究(B)『『観光の組織化』と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築』課題番号18H03457(研究代表者：山田浩久)の研究計画に沿って、調査、分析を行ってきたが、こうした問題意識に基づく研究成果の取りまとめを行うために、「ニューノーマル時代の観光を目指す地域の変容」と題する研究集会を2022年2月19日13:00-16:30にオンライン形式で開催した。なお、本研究集会は、2021年度東北地理学会第1回研究集会にあたるが、当研究グループでは第3回目の研究集会となる。

研究集会は、本多広樹先生(山形大)に総合司会をお願いし、研究グループ代表の山田浩久(山形大)のあいさつ、趣旨説明に続いて、当研究グループに属する8名の研究者が、それぞれの分担部分における研究報告を行った後、約30分間の総合討論を行った。総合討論では、非会員を含めた約30名の参加者が意見を交わし合い、本研究の新たな展開に繋がる有意義な知見を得ることができた。発表要旨は今後「季刊地理学」上で公開される予定である。

次第

1. <開会あいさつ>13:00~13:05
山田浩久(山形大学)
2. <趣旨説明>13:05~13:15
山田浩久(山形大学):東北の次世代観光と地域構造
3. <研究報告 第1部>13:15~14:35
ニューノーマル時代における東北の地域構造を考える
山田 浩久(山形大学):COVID-19感染拡大前の東北地方の地域構造
初澤 敏生(福島大学):COVID-19の流行に伴う教育旅行の地域構造変化
宮原 育子(宮城学院女子大学):ジオパークにおけるボトムアップの観光まちづくり
中澤 信幸(山形大学):日台交流の現状と課題
4. <休憩>14:35~14:45
5. <研究報告 第2部>14:45~16:05
ニューノーマル時代に向けた地域の試み
山口 泰史(熊本学園大学):冬の地域資源を活用した観光イベントによる地域の変容
岩動志乃夫(東北学院大学):東日本大震災後の本設商業施設への来訪者特性とその評価
吉田 樹(福島大学):観光による地域公共交通の変化
楢引 素夫(青森大学):青函圏の地域間交流の変化
6. <総合討論>16:05~16:30